図書館員が選ぶこの一冊 102

『わたしのグランパ』
文藝春秋　筒井 康隆／著

　中学1年生の珠子の家に、15年間服役していた祖父・謙三が突然帰ってくる。謙三は、いじめや両親の不仲など、珠子を取り巻く問題を次々と解決していく。珠子は謙三を「グランパ」と呼び、次第に心を開くが、謙三が過去に得たお金をめぐるトラブルに巻き込まれ、友達と共に誘拐されてしまう…。



　破天荒だが正義感にあふれ、ちゃめっ気のあるグランパと、その影響を受け成長する珠子。2人はどこか似たところがあり、世代を超えた家族のつながりと深い愛情を温かく描いている。第51回読売文学賞を受賞し、2003年に映画化もされた作品。